

えびあん

立川と語ろう 立川に生きよう

December 2013

Écoutez Bien Vol.32 No.349

12

万が一のその時は! —— 自衛消防隊



表紙の人 / 高橋酒店女性三代(栄町)



大切な人たちと聖夜を祝う

Noël Comme chez nous!

栗ご飯をしのばせた立川シャモ鶏の蓮の葉包み ピンテージマデラ酒ソース

レギャン東京 マエストロシェフ

山岸一茂

アット言う間に年の瀬ですが、皆様お元気でお過ごしでしょうか？僕はとっても元気です。ハイ！今回はクリスマスという事もあり、少し豪華に演りましたよ。フレンチのシェフはこの時期、絶対にジビエ料理を使います。野鴨・蝦夷鹿・雉・野うさぎ等。今回は、立川から美味しい軍鶏が届きました。この軍鶏、立川でも中々手に入らない物。あるルートから2羽入荷出来ましたので、軍鶏をフュージョン料理に仕上げました。

軍鶏は中抜きにして栗ご飯を詰めます。白ワインをかけ蓮の葉で包み蒸し上げます。付け合わせは朝摘みの旬のお野菜。ソースは今流行っているマデラ酒で作りました。そしてキャビアと蕎麦粉ブリーニ。よく冷やしたドンペリで、まずは乾杯・チンチン。その間に蒸籠の中では立川軍鶏がジワジワと蒸し上がっています。キャビアを食べ終わったら、いよいよ、軍鶏の登場です。湯気が出ています。ゲストの前で蓮の葉を開けます。美味しそうな香りが部屋全体に漂います。軍鶏が顔を出したら、腿肉からカット。そして胸肉にナイフを入れると、栗ご飯が見えます。お皿に盛り付けてマデラ酒ソースをタップリと掛けます。蓮の葉の風味とジューシーな立川軍鶏、栗ご飯とのマリアージュはもう最高！お好みの赤ワインと一緒に

召し上がれ。

そう忘れていた。クリスマスケーキ。今日はベリー達をムースにして、チョココレートでコーティングしました。少しリキュールも効かせて。お気に入りのBGMを聞きながらクリスマスの夜長をお楽しみ下さい。

僕は料理サロン・学校等で特別講師をしています。最近思う事が有ります。日本だけなんです。料理を習いに学校に行く女性が多いのは。特にフランスではパリジェンヌに話を聞くと、料理を習いに学校に行くのはおかしい。料理は自分の母親かお祖母さんに教わるものと、皆さん口を揃えて言います。うちの鴨のシチューは美味しいのよ、うちのリンゴのタルトは最高よ！と。そう、子々孫々に甕から甕に水を移す如く、料理は母親から子供へと伝承されて行く。何が云いたいかと？娘さん達はおもつと家でお母さんから料理を学んで欲しい。必ずお祖母さんから代々受け継がれている料理が有ります。それをしっかりと伝授して貰い、将来の旦那さん、子供に食べさせてあげて欲しい。男は40歳位になると、お袋の味が食べたくになります。話は止め処も無くなって来たので、この辺で次号に持ち越します。クリスマスナイト！大切な方々と一緒に、ボナペティ！

世界に、 未来に伝えたい

忘れないでほしい、福島のこと、原発のこと

福島を離れて新幹線の中で見た木々の緑。

「同じ緑なのに、ここの緑は福島の緑とは違う。なぜ?」

放射能への不安に怯えない輝く緑を見ながら、この小説を一気に書き上げました。

— 大山さんは福島県石川町から今年4月に日野市に越してこられました。福島のことを思って小説を書かれて、それを立川の「福島応援館」に寄贈しようとしたけれど、残念ながら、福島応援館は現在閉館して、出張販売のみになっているんですね。

大山 はい。残念ですね。

— いろいろなところへ寄贈されていらっしゃるんですよ。

大山 はい。多くの方に読んでいただきたくて。

— この小説は震災後、余震で疲れた体を休めに、娘さんと二人で息子さんのいらっしゃる三重県に向かう新幹線の中で書かれたとか。

大山 はい。窓から見える山の木々は美しい緑。しかしどこか福島の緑とは違う。同じ緑のはずなのに、でも今は違う。それはなぜ? ああ、それは放射能がないからだ、不安がないんだなとそう思い、いつも持っているノートに書き始めたら、この物語の構図が頭の中にパッと出てきたんです。一気に書きましたね。(笑)

— 小説といっても、詩のような形態なんですか。

大山 そうです。ですから詩小説といえます。主人公「ボク」のモノログです。

— 「ボクと大地」を読ませていただいて、思い出した映画があるんです。黒澤明監督の『夢』という映画。短編が7つ入っている

のですが、その中に『赤富士』と『鬼哭』という作品があります。『赤富士』は、大勢の人がどこへ逃げることもできないのに逃げて惑っている。目の前には真っ赤に染まった富士山が噴火している。実は原子力発電所が爆発したということで、科学者が開発した薬品で放射性物質は着色されわかりやすくなっているんですが、その着色された霧が人々に迫ってくるというものなんです。

大山 着色されて放射性物質だとわかる分、もっと怖いんですね。

— そうなんです。で、『鬼哭』の方はその続きみたいな感じで、核汚染で世界は荒野になってしまい、巨大化したタンポポとか、もはや人間とは呼べない鬼の姿の人間とか出てくる…。

大山 え? 私、その映画見てないのに…。
— でしょ? 黒澤監督と同じ発想で書かれたのが大山さんの詩小説なんだなと思いました。いろいろな方々に気を遣って、とても婉曲な表現にはなっていますが、未来に生きる「ボク」がお母さんのいた過去の美しい地球を知る…。ちょっとSFっぽい。

大山 そう…。私はいわゆる拳を上げての「原発反対!」ではないんです。でも、賛成でもない。一度、歩みを止めてみんなで考えてみようよと言いたいんです。本当のことを知りたいし、誰もが「大丈夫じゃない」ってわかるのに「大丈夫」って言い切ってしまうので、少し考えようよと言いたいんです。

— わかります。今考えなかったら未来はない、ということなんですよ。福島の人だから、切実にそれを感じる…。

大山 ええ。私は小さい頃に広島原爆に遭った女性の本を読んだことがあります。それがずっと心に残っています。私の書いたこの本も、読んでくださった方の心に残ってくれて、未来を救う一助になったらと思うんです。私には何もできないかもしれないけれど、小さな叫びを、この本やブログで発信し続けたいと思っています。

— なるほど…。それで、大山さんは三重県に避難されたんですか?

大山 いいえ。実は、最初は茨城県の姉の所に避難したんです。でも、親類縁者といえども、2、3日ならいいのですが、長くなるとお互いに居辛くなります。それで三重県の息子の所へと思いましたが、やはり自分の家が一番なんですよ。行く当てもなくさまよう結果になることはわかっていますし、住む所も、仕事も、何よりお金もないですから、どうしてよいかわからないというのが本当です。

放射能に怯える生活も大変ですが、避難生活はとても大変です。避難生活で心を病んでしまう方々がいらっしゃいますが、亡くなってしまわれる方もいるくらいです。本当に苦勞なんですよ。気力も何もなくなってしまうんです。だから放射能が心配でも、不安でも、みんな自分の家に帰りたいんです。だっ



大山いづみさん

福島県で会社員をしている時、震災に。福島県の自然を愛し、著書『ボクと大地』で原発に疑問を投げかける。同書は英訳されていて、海外の人にも広く読んでもらいたいと考えている。日野市在住

て戻ればそこに家があるんですもの。

— そうですよ。石川町は原発からかなり離れていますが、それでも出荷される果実の全箱検査をしていますね。私は会津からお米を買っていますが、会津でもお米の全袋検査しないと出荷できないんです。

大山 そうですよ。そうでないと安心してもらえないですからね。福島は果実もお米もおいしいんです。私は10年前に離婚して、離婚後は会社員でしたが、それまではずっと農家でした。福島の農産物は本当においしい。

— じゃ、離婚されてからはお子さんたち3人はおひとり育てられた?

大山 いえ、もう子供たちは社会に出ましたから。農家の嫁になって28年。頑張ってきました。夫に隠れて子供たちには「自分の人生だから生きたいように生きなさい。親のこと、家のことは考えなくていい」と言って育ててきました。自分の責任で生きないと、何かあった時に他人のせいになってしまう。「あの時お父さんがこう言ったから」とかね。後悔をする事は前に進む事に繋がるけれど、いっぱいしすぎると辛いですからね、そうなってほしくないと思いました。だからなのか、私が離婚したいと言ったとき、子供たちは「お母さんの人生だから、お母さんがそうしたいならいいんじゃない」と言ってくれました(笑)。

— 立ち入ったことかもしれませんが、福島の農家で離婚するのは大変だったでしょう?

大山 そうですね。今、他の小説も書いているのですが、そこにも書きました。辛い状況を変えるには、まず自分が動かさなきゃならない。誰かが変えてくれるわけじゃないって。私自身がそう思い知ったんです。もちろん、そのためにはプライドも捨てな

きゃならないですよ。積み上げてきたものも捨てなきゃならないし。私はやりたいことを我慢して生きてきて、ずっと後悔ばかりの半生でした。でも人のせいじゃなかったんですよ。自分が動くことでしか何も変えられない。そう決断できたから、今があるんでしょうね。

— そうでしたか。

大山 だからこの放射能についても、ご先祖様とか土地家屋とか、捨てられないいろいろなしなみがあるじゃないですか。でも先祖様がなんと言おうと、未来を思ったら今みんなで考えるために立ち止まらなきゃいけないって思うんです。誰になんと言われようと、未来に希望を持って、今考え直したいんです。

— この本のあとがきに、「出る杭は打たれる」しかし「出過ぎる杭は打たれにくい」って書いてありますよね。中学生の時の先生のお言葉とか。

大山 そう(笑)。先生の言葉。ちょっと目立つといじわるされたりするけれど、ぴょんと手の届かないところまで行けば、誰も叩かない…。いろいろ言われることはありますし、どう見られているかと考えることもあります。何もしなかったら、平穏無事にみんなと表面上は仲良く暮らせるかもしれない。でも、それでは未来の子供たちが幸せに暮らせなくなるかもしれないって思ったら、全部が全部賛同してくれなくても、ほんの少しの人が考えてくれたら、変わるかもしれないでしょ。

— そうですね。しなくて後悔するよりも



いですよね。これからはどうされるのですか?

大山 放射能のこと、どうしようって考えると暗くなってしまいます(笑)。でも発信し続けます。なぜなら忘れてほしくないから。だって、廃炉に向けて頑張ってくれていると思っ

ているでしょ? 何にもしてないですよ。手付かずですよ。だって、何にもできないんですよ。周りの汚染水だけ手一杯。

— そうですね…。小さくてもその警鐘を鳴らし続ける。
大山 そう。私が広島原爆で苦しんだ女性の本を読んで忘れられなかったように、この本も心の片隅に残ってくれればいいなと思います。そういえば福島、昔こんなことがあったよね。もうこれ以上は許せないよねって思ってもらえれば、ありがたいです。そして何よりこれからの若い人たちに、感じてもらいたい。未来のために。発想の転換をすると、こうなことは新しい時代への始まりでもあるかもしれないと思っています。先を明るく見て、みんなががんばりたいですね。

より正確に、 より安全に、 より迅速に。

日頃の訓練の成果を発表する——自衛消防隊訓練審査会

平成25年10月10日(木)。

立川市役所北側広場にて、恒例の自衛消防隊訓練審査会が開催された。

21事業所の自衛消防隊男女合わせて29チームが参加、非常にレベルの高い審査会となった。



男子隊優勝 (株)ルミネ立川店



女子隊優勝 宗教法人 真如苑 女子



参加全チームは以下の通り。(発表順)

Aコース

- ・(株)一如社 女子
- ・ジェイアール東日本商業開発(株) グランデュオ立川 女子
- ・(株)三越伊勢丹 伊勢丹立川店 ・立飛開発(株)
- ・立川市役所 男子B ・立川市役所 女子A
- ・ジェイアール東日本商業開発(株) グランデュオ立川 男子A
- ・国家公務員共済組合連合会 立川病院
- ・東日本旅客鉄道(株) 立川駅 ・東京ガス(株)
- ・NECロジスティクス(株) 西東京支店 ・立川市役所 男子A
- ・宗教法人 真如苑 男子A
- ・(株)立飛ホールディングス ・(株)ビックカメラ立川店

Bコース

- ・社会福祉法人桜栄会 特別養護老人ホーム 砂川園
- ・東日本旅客鉄道(株) 八王子支社立川運転区
- ・ジェイアール東日本商業開発(株) グランデュオ立川 男子B
- ・陸上自衛隊東立川駐屯地
- ・(株)一如社 男子 ・立川市役所 女子B
- ・独立行政法人国立病院機構災害医療センター 男子
- ・立川グランドホテル ・宗教法人 真如苑 男子B
- ・(株)JR東日本ステーションリテイリング エキュート立川
- ・宗教法人 真如苑 女子 ・独立行政法人国立病院機構災害医療センター 女子
- ・(株)ルミネ立川店 ・国立市役所

初期消火の重要性は誰もがよく知るところ。しかし「頭の中だけで知っている」では、なかなか体は動かない。やはり日頃の訓練が重要だ。ことに多くの人が集う事業所では、地震や火災など災害発生時を考えると、被害を最小限に留めるためのこうした自衛組織がしっかりしていることが、市民にとって安心につながる。

今年は、消火器や屋内消火栓を使った初期消火活動に加えて、胸部圧迫とAEDの応急処置活動が審査対象に。制限時間内に所定の活動を終えなければ減点され、正確さや安全性、また規律や資器材の扱いなどが消防官によって厳しくチェックされる。飯田立

川消防署長のまよめの話にもあったが、どのチームもキビキビと現場さながらの活動で、非常に高いレベルの審査会となった。本年度、男子は優勝=ルミネ立川店、準優勝=真如苑 男子B、3位=立川市役所 男子A、女子は優勝=真如苑 女子、準優勝=一如社 女子、3位=伊勢丹立川店だった。

立川には同じ時期、箱根駅伝予選会というビックイベントがあるが、こちらの審査会もなかなか見ごたえがある。年々応援団も増えているし、立川の一大イベントになる日も近い？

えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。今月は柴崎町・富士見町のお店です。

柴崎町

- 手焼せんべい 雷神堂 521-5705
- 石原薬局 523-4067
- B級食堂 相模屋 525-9478
- お菓子工房 ティーコジー 525-6366
- サイクルハウス 輪輪館 522-8100
- ESBI 立川南口店 526-2947
- いなげや 立川南口店 (2F) 526-2947
- ひがしミート 522-6266
- (株) 正盛堂 522-2328
- いなすし・のり巻きすし 松月 523-4758
- 小林歯科クリニック 527-8217
- ビューティーサロン ウィスタリア 527-1116
- オリオン書房 サザン店 525-3111
- ステーキ&パンパグのお店 WISH BONE 527-7199
- 医療法人社団 天佑会 三船クリニック 523-6693
- 西武信用金庫 立川南口支店 529-1311
- たましん 南口支店 528-2211
- りそな銀行 立川支店 522-4161
- オリオン書房 アレア店 521-2211
- ぽとすペース 中屋 522-2932
- 立川ワシントンホテル 548-4111
- Coffee Shop LARGO 525-6704
- パッケージプラザ カサイ 522-8601
- (株) けやき出版 525-9909
- 手づくり ぎょうざ工房 522-4770
- みどりっ子 立川店 521-6688
- 喫茶 キャラリー花 524-3668
- 髪職人 522-5593
- 矢沢歯科・眼科 525-6601
- ラ・フレーズ シュクレ 525-3513
- (株) 京王ストア 立川店 540-1131
- 武本測量 (株) 524-7731
- 立川市柴崎市民体育館 523-5770
- NPO法人 東京 賢治の学校 523-7112

富士見町

- (株) 浅見酒店 522-2823
- 伊藤接骨院 524-7861
- カット・スペース 523-8619
- café こもれば家 526-2506
- 手作りケーキの店 フティ・パニエ 529-8364
- さえき 西立食品館 529-5333
- (株) ヤマダ電機 (法人) 526-1044
- ヤマダ電機 526-1099
- ダイクマ 立川店 526-1099
- 西村歯科クリニック 519-9501
- 井上レディースクリニック 529-0111
- 中華レストラン 東華園 529-0458
- 榎本調剤薬局 526-2322
- 有料老人ホーム サンピナス立川 527-8866
- 飯塚花店 522-5684
- 一社グループ エスパス 21 527-0370
- うさぎ専門店 ラッキーラビット 524-6054
- (株) ホーミー 522-2220
- カフェ・賞しホール ばくだん畑 522-2214
- Café Cuisson 090-6935-1227
- 波多野米店 522-2884
- 立川市社会福祉協議会 529-8323
- 桜井電材 (株) 523-5281
- 立川市歴史民俗資料館 525-0860
- 乙黒東洋整骨院 523-1859
- インテリア アイアイ 522-5972

街の話題

第90回の記念大会予選会

10月の第三土曜日と言えば、箱根駅伝予選会。すっかり立川に定着しました。今では本戦さながらの生中継もあり、観客も年々増えているようです。9時半に自衛隊駐屯地をスタートした選手たちは市内を走り抜け、昭和記念公園 みんなの原っぱでゴール。記念大会になった今年は、13校が予選を通過、ハラハラドキドキの結果発表となりました。それにしても、先頭だけ見ているとまるで国際マラソンのようですね。



折り返し地点で

走って、跳んで、投げて ——陸上競技会

台風一過の10月27日(日)、市営立川公園陸上競技場において、第67回 立川市民体育大会 陸上競技大会 地区対抗の部・オープンの部が行われました。開会式には清水市長はじめ多くの来賓の方々が参列、前年度総合優勝の若葉町体育会の選手宣誓で競技開始。風は強いものの暑いくらいの日差しの中で、楽しく体を動かし、トラック競技、フィールド競技それぞれ全力で競い合いました。



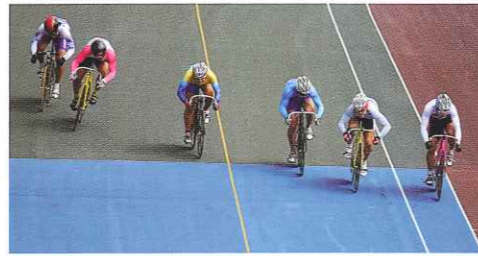
こんなお写真を預かりました

えくてびあんにはいろいろなものが集まってきました。この度はお祖父さまの遺品を整理していたらこういうものがありましたというお話です。戦争に行かれた時の一式とともに、このお写真も『立川消防署』と記してあります。消防団の歴史は長いんですね。



自転車競技は やっぱり強かった!

2013東京国体が終了しました。立川で開催されたすべての競技も無事終了。中でも自転車競技は東京が総合優勝とすばらしい成績でした。ここには少なからず昭和第一学園自転車競技部の力が。立川競輪場で行われたトラック競技にも、八王子で行われたロードレースにも、昭和第一学園高校の在校生、卒業生の勇姿が見られました。



みのーれ立川の外観が、 ちょっとすてきですよ

砂川町にあるファーマーズセンター「みのーれ立川」は、地元の新鮮野菜がたくさん揃っているところ。「新鮮・安全・安心」がモットーです。今日はその外観のご紹介。ちょっとすてきな野菜写真が目玉をひきます。おいしそうでしょ?ここにイートインコーナーがあったらなあ、なんてえくてびあんは勝手に思うのでした。



消防総監感謝状の贈呈です

10月9日(水)、曙町にある店舗で荷物を搬送中の男性(70)が突然倒れ、心肺停止になりました。近くにいた警備員の堀内さんが、意識の確認と呼吸の確認を行い、その判断で心臓マッサージを行い、同僚の林さんに119番通報を依頼、さらに同僚の福士さんにAEDの搬送を依頼。福士さんがAEDの除細動パッドを貼っていた所へ、看護師の高橋さんが通りかかき、心臓マッサージを交代、除細動の実施を福士さんに指示、その後到着した救急隊に引き継ぎました。男性はこの速やかな応急救命活動により、一命を取り留めたそうです。本当に日頃の訓練そのままに動けるってすごいです。



受賞者 高橋身依さん 受賞者 左から堀内正彦さん、林芳幸さん、福士一郎さん

TACHIKAWA 燦燦 Illumination

今年ももうこんな時期になりました。このえくてびあんがお手元に届くころ、立川はキラキラ輝いていることでしょう。2014年1月5日まで点灯される光のファンタジー。年に1度のこの季節。すてきな夜をお楽しみください。



村山デイダラまつり

10月26日(土)、27日(日)にプロジェクトMURAYAMA用地で予定されていた第8回村山デイダラまつり。初日は台風の影響で中止になりましたが、日曜日はすばらしい秋空の下、多くの市民が集い盛大に行われました。村山デイダラまつりと言えば「食」のイメージ。地元、あるいは地方の美味しいもの、珍しいものがいっぱい。ステージでは村山うどんの大食いだったり、ダンスだったり、バンドだったり、こちらも大盛り上がりでした。会場には懐かしの車がズラッと。〈SKYLINE GTR〉に思わず「ケンとメリー」歳がバレますね。



富士山初冠雪

10月19日、富士山の頂上が雪化粧、富士山らしい富士山になりました。平年より19日遅く、昨年より37日も遅いそうです。富士山は雪を頂くと、ますますきれいですね。立川から見えるダイヤモンド富士の季節も間もなくです。手前味噌かもしれませんが、立川からのダイヤモンド富士が、太陽と富士山の角度からいって一番美しいのでは?とえくてびあんは思っています。



読者投稿写真(2013.10.19撮影)

ルミネ屋上の 「あおぞらガーデン」

10月12日(土)、13日(日)、14日(祝)に行われた秋の「あおぞらガーデン」は、季節と時間を味わう不思議空間となりました。『東京ネオファーマーズ』は、東京で新たに農業を始めた人、始めたい人が集まる「新規就農者」のコミュニティ。珍しいお野菜などがかわいくラッピングされて売られていました。「あおぞらガーデン」のために組まれたスペシャルユニット『ロバート・パーロー』のコンサートもありました。次回も楽しみですね。



花前線通過?

昭和記念公園みどりの文化ゾーン入口に金木犀の木が2本あります。ある日、通りすがりに見ると、木の南半分は濃い緑。線を引いたように北半分は満開のオレンジ色なのです。はてさてこれはどうしたことから? そうです。下を見てみたら、南側はもうすっかり花が散っていたのでした。お日様の力がすごいですね。



サブカルの街 立川



時おり強く降る雨にも動じません

東京コスプレショーに出場したみなさん

コスプレすると成りきって変身できるらしい

立川はずっと昔からちょっと近隣市とは違う性格をもった都市。陸軍があったり、映画の街だったり。だから「サブカル」の街と言われても違和感なんてありません。サブカルチャーとは、アニメだったり漫画だったりゲームだったり。つまり、今どきの最先端。第2回立川あにきゃんは、台風が心配された10月26日(土)にサンサンロードをメイン会場に開催されました。台風でもこれだけの人を集められるのだから、その力はすごいです。う〜んと眉をひそめる大人がいるかもしれません。でも、東京コスプレショーの舞台をみてみてください。そこに登場する一人ひとりとはまったくアーティスト! 因習にとらわれない立川だからこそ、若きアーティストを生み出すことができるのかな、と思いました。えくてびあん、道行くおじさんに「コスプレと仮装行列の違いを教えてください」と言われました。(詳細は次回えくてびあんでご覧ください)

表紙の人

高橋幸枝さん、純子さん、愛末ちゃん、未羽ちゃん

榮緑道に近い高橋酒店。昭和22年創業で、当時は緑道に貨物が走っていたのだとか。南部住宅と呼ばれていた地域ですが、専業商店は高橋さんのところ1軒きりしかなくて、食料品配給所にもなっていたそう。幸枝さんは一人娘。そして純子さんも、かわいいお嬢さんたちが加わって華やかなお宅です。

かたこと

◆高橋さんちの愛末ちゃん。幼稚園のお友達とお手紙の交換をしているのだそうです。毎日会っているのに?なんて思ってしまうのですが、実は今、お手紙交換がブーム。ママが代筆したりしているうちに字を覚えて書くのだとか。シールを貼ったり、スタンプを押したり。楽しそう! ◆福島県の大山さん。心はいつもふるさと福島を思っているんですね。福島の方だけの問題ではありません。日本中の、いえ世界中の関心事です。◆毎年自衛消防隊訓練審査会を見学に行っています。チームメンバーは毎年変わるのですが、レベルが落ちるということがない! もっと多くの事業所に参加してもらいたいと思います。◆今月は街の話題が多くてお店を紹介することができませんでした。お店と言えば、こんなご要望が届いています。「血糖値や塩分が気になって外出できないので、体の負担にならないお食事ができるところを紹介して」と。なかなか難しいのですが、探してみたいと思います。◆あちらへこちらへお邪魔して、気づいてみればもう12月。今年は秋が短かったせいか、あっという間に冬になってしまった気がします。今年も皆様のおかげで師走を迎えることができました。本当にありがとうございます。どうぞ来年も、えくてびあんをよろしくお願ひ申し上げます。

えくてびあん®

12月号 第32巻 通巻349号

平成25年12月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082
FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL www.tamatebakonet.jp

発行人 黒須環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男
(WATER DESIGN ASSOCIATES)

印刷 三浦印刷株式会社

無断転載を禁じます。



映画「しあわせのパン」から

登場する食べ物が実においしそう。夏のお客様にもてなすクグロフやラザーニャ。秋のお客様が食べるサクサクの真ん丸コロッケ。そして冬のお客様には土鍋で炊いた真っ白なごはん。絶対空腹の時に観てはならない映画のひとつ。北海道月浦にある、夫婦で経営するパン屋が舞台。モデルになったパン屋さんは、上映後からお客様が絶えないのだとか。すごく日本っぽい話。

夏のお客様は沖縄旅行を彼氏にドタキャンされた東京の女性。月浦でいい出会いがあって、クグロフを彼と分けて食べる。そして月浦を出ていく2人の後ろ姿に「誰にでも1人から2人になる瞬間があります」というナレーション。

秋になると小学生の女の子がやってくる。お母さんのパンプキンポターージュが食べたいが、お母さんは家を出てもう帰ってこない。泣きたいのに泣けない彼女

は、その夜パン屋夫婦がセッティングしてくれた「温かい晩ごはん」を父親と食べて、「お父さんと一緒に泣きたかった」と。かぼちゃのスープに父子は分け合ったパンを浸して食べる。「ひとり、じゃなく2人なんだと気付く瞬間があります」とナレーション。実はお父さんも泣きたかったのだ。

そして雪の中のお客様。人生も黄昏れて終盤を迎える冬。病気の妻を抱えた夫が死に場所として選んだ月浦。パンが嫌いなはずなのに、妻は焼きたての豆パンを頬張り、夫にも分ける。人間は最後まで変わり続けられるのだ、妻は生きようとしている。自分から死を選ぶのは傲慢だと気付く夫。お客様を通して、パン屋自身もパンを分け合う幸せに気づく。

さて今晚は我が家でも、見慣れた面々に改めて感謝して、パンを分け合いチーズフォンデュでも食べようか。

マーニ（武蔵野市）